（１８）　セルリー

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.発病の甚だしい圃場では、長期間の輪作をする。 2.生育中期以後は過度の中耕土寄をしない。 3.排水を良好にし、密植を避け、通風を良好にする。	発病初期	31 24･M1 24･M1	スターナ水和剤 (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
2 葉枯病 *Septoria apiicola*	1.連作を避ける。 2.収穫後は被害茎葉を集めて処分する。 3.種子を48℃の温湯に30分間浸漬し、直ちに冷却する。			
3 斑点病 *Cercospora apii*	1.連作を避ける。 2.収穫後は被害茎葉を集めて処分する。 3.種子を48℃の温湯に30分間浸漬し、直ちに冷却する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象にダコニール１０００で防除しているところでは、葉枯病の発生が少ない。 2.降雨の多いときに発生しやすいので、予防散布に努める。	発病初期	3 11 11 M5 24･M1	トリフミン水和剤 アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル ダコニール１０００ (混)カスミンボルドー
4 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.排水を良好にする。 2.ハウスでは換気を十分に行って、ハウス内が多湿にならないようにする。 3.連作を避ける。	発病初期	7	アフェットフロアブル
5 萎黄病 *Fusarium oxysporum* f. sp. *apii*	1.連作を避ける。 2.育苗土は市販のものを使用するか、床土苗床の消毒を徹底する。 3.収穫後は被害茎葉を集めて処分する。 4.高温期の栽培では、地温を下げるために敷きわらをしたり白マルチを使用する。 5.湿害や窒素過多による根部の肥焼け、軟弱徒長は本病の感染を助長するので、そうならないよう栽培管理する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法は、Ⅲ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ －	ガスターード微粒剤 バスアミド微粒剤
6 心腐症 （石灰欠乏症）	1.石灰類を含んだ葉面散布剤を発病初期に散布する。 2.塩化石灰またはスイカルに展着剤を加えて散布する。 3.アグリメイトを早めに新葉、中心部によくかかるように７～10日間隔で３～４回葉面散布する。			
7 ホウ素欠乏症	1.植付前、硼砂を２kg、基肥に施用する。 2.葉面散布用ホウ素を散布する。			
8 アブラムシ類	1.育苗期間は飛び込み軽減のため、防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アルバリン粒剤、スタークル粒剤は植穴土壌混和する。	定植時 発生初期	4A 4A 4A 4A 4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤 アドマイヤーフロアブル アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤
9 ハダニ類	1.周辺雑草を防除する。	発生初期	6 25A	コロマイト乳剤 ダニサラバフロアブル
10 マメハモグリバエ	1.外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ディアナＳＣは、ハモグリバエ類に登録がある。	発生初期	5 5 6 15 17	スピノエース顆粒水和剤 ディアナＳＣ アファーム乳剤 カスケード乳剤 トリガード液剤
11 ヨトウムシ	1.年２回発生で、秋は９月中旬～10月上旬に成虫が出現する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アファーム乳剤はオオタバコガ、タバコガにも登録がある。	若齢幼虫期	6 13	アファーム乳剤 コテツフロアブル
12 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	5 6 15 UN	ディアナＳＣ アファーム乳剤 カスケード乳剤 プレオフロアブル